

◎ 関西大学協賛の「第1回大阪マラソン」開催

オール関大で給水・語学ボランティア、応援活動 大阪の街で関大生が“考動”した!

「第1回大阪マラソン～OSAKA MARATHON 2011～」(大阪府・大阪市・一般財団法人大阪陸上競技協会主催)が、10月30日に開催された。協賛団体として大会運営に協力する関西大学からは、19人のランナーが出走。給水ボランティア、語学ボランティアとして多数の学生が参加し、応援団や同好会も多様な応援イベントで盛り上げた。



「この水で頑張っや！」

午前9時に、フルマラソン27,161人、チャレンジラン(8.8km)2,002人のランナーが、大阪城公園前をスタート!

大阪マラソンのコースには、大阪のランドマーク的なところが数多く含まれている。なんばから御堂筋を北上し、大阪市役所、中央公会堂を過ぎて、また御堂筋をなんばまで戻り、京セラドーム大阪、通天閣周辺、住之江公園から南港ベイエリア周辺を通過し、インテックス大阪がゴールとなる。途中、中之島公園や道頓堀周辺も通る。その沿道で、約1万人ものボランティアが活動した。

関西大学が担当した給水所は5km地点。スタートして間もないランナーが一齐に勢よく押し寄せするため、機敏な動きが要求される。ボランティア約400人がスタンバイ。声援とともに、次々に水を手渡した。リレーのバトンを手渡すように気をつけて、素早く、確実に――。

「外国語対応、応援はまかせて！」



関西大学からは、23人の語学ボランティアが参加した。約3,000人の外国人ランナーが出走する大阪マラソンでは、ランナーやその家族とのコミュニケーションが大きな課題となっていた。そのため、英語、中国語、朝鮮語に堪能な学生、留学生、職員が、大会当日の総合案内所で通訳として対応した。

また、沿道の観客とともにマラソンイベントを盛り上げるのに、応援団や同好会などのメンバーも活躍した。

中央公会堂前では9時40分から約30分間、応援団リーダー部、応援団バトン・チアリーダー部、応援団吹奏楽部が出演。大阪市西南環境事業センター前では11時過ぎから約3時間半にわたり、3団体(チアリーディングサークル「CLAIRS」、文化会混声合唱団「葦」、ダンスサークル「Belly Divas」)が出演した。

沿道の熱い声援を受けた関西大学のランナー19人は、全員が見事に完走した。「苦しくてもうだめかと思いましたが、『頑張っや!』という声に背中を押されてゴールインできました」と、応援を感謝する声が多く聞かれた。



◎ 学び、考え、盛り上げるプレイイベント開催



■ 大阪マラソン開催記念シンポジウム

大阪マラソン開催に先立って、「大阪マラソン開催記念シンポジウム in 関西大学」(読売新聞大阪本社共催)が、9月24日に千里山キャンパスで開かれた。テーマは「今、なぜ、スポーツボランティアなのか」。ゲストランナーとして出場した谷川真理さんが基調講演。パネルディスカッションでは、本学教員らが意見を述べた。今大会をサポートした約1万人のボランティアにスポットを当て、スポーツボランティアが地域社会の中で果たす役割などを語り合った。

■ メンタルトレーニングの公開講座



関西大学と大阪よみうり文化センターは、「半年で走れる!〜めざせ!大阪マラソン」と題する講座を開講した。最終回となる第8回講座が10月10日、千里山キャンパスで公開講座として開かれ、約220人が聴講した。関西大学体育会陸上競技部の武田夏実監督が、「マラソンに使えるメンタルトレーニング」をテーマに講演。スタート前の緊張を和らげるための呼吸法やストレッチ法など、すぐに実践できる方法と心構えをアドバイスした。

■ 「大阪マラソンEXPO2011」に関大ブースを出展

10月28日と29日の両日、インテックス大阪で大阪マラソンのランナー受付と同時に開催されたイベント「大阪マラソンEXPO2011」に、関西大学ブースを出展した。大阪都市遺産研究センターの協力のもと、豊臣時代の大阪城と大阪の町並みが生き生きと描かれた「豊臣期大阪図屏風」(複製)や、大阪の今と昔を比較した写真入りパネルを展示した。また、大阪マラソン公式スポンサーとして本学が行ってきた取り組みをパンフレットなどで紹介。多くの人が屏風やパネルに見入ったり、記念撮影するなど、ブースは大いに賑わった。

